英国の飲食サービス業、第3四半期も減少し5四半期連続のマイナス

英国の飲食サービス業は第3四半期に1.9%減。9月は0.6%増となったが、レストラン、パブ、カフェの低迷を補えなかった

2026年11月12日（木）



英国の飲食サービス業は第3四半期も減少が続いた。一方、宿泊業は拡大し、業界全体では9月に小幅な月次反発が見られた。

英国国家統計局（ONS）が11月12日（木）に発表したデータによると、季節調整済み連鎖数量方式で算出した飲食サービス業の実質付加価値は、7～9月期に4～6月期比で1.9%減少した。同業界では、3カ月移動比較で5四半期連続の減少となった。

レストラン、パブ、カフェなど飲食サービス事業者の低迷は、宿泊業の成長を上回った。宿泊業の実質付加価値は7～9月期に前の3カ月間から2.5%増加したが、この伸びでは飲食サービス業の減少

を補えなかった。宿泊・飲食サービス全体では、第2四半期比で実質付加価値が0.5%減少した。

9月の数値は8月からいくらか改善したものの、全体的な傾向を変えるには至らなかった。ONSによると、飲食サービス指数は8月の97.9から9月には98.5に上昇し、前月比で0.6%増となった。それでも指数は2025年9月の水準を4.4ポイント下回り、前年同月比では4.3%減だった。

業界の実績は年初の水準にも届かなかった。ONSが公表した月次指数に基づくと、1〜9月の飲食サービスの平均水準は、2025年の同じ期間を1.9%下回った。

この数値は、英国の消費者向けサービス業の一つで、業況の差が広がっていることを示している。ホテルなどの宿泊事業者は第3四半期に拡大した一方、外食や飲酒に直接関わる事業者は縮小が続いた。飲食サービス業は宿泊・飲食サービス全体で大きな割合を占めるため、宿泊業が伸びたにもかかわらず、同業界の減少が全体を押し下げた。

ONSは、月次国内総生産（GDP）推計および飲食サービス活動指数の一環として、このデータを公表した。各指標は季節要因を調整し、連鎖数量ベースで示されている。これは価格変動の影響を除いて生産量の変化を示すためのものだ。

飲食サービス業の四半期減少は、ホスピタリティ業界が家計支出や裁量的需要と密接に結びついていることから、業界の枠を超えて重要な意味を持つ。9月に月次指数が上昇したことは四半期末にかけての安定化を示唆する一方、前年同期との比較では、活動水準が1年前を大きく下回ったままだった。

今回の発表を受けても、2026年の大半を通じて形成されてきた基調に変化はない。飲食サービス活動は、3カ月移動比較でも年初から9カ月間の比較でも弱含み、宿泊業はより底堅さを示した。この明暗の差により、ホスピタリティ業界全体の指標は第3四半期もマイナス圏にとどまった。